

議会だより

Vol.211



2023.11

Contents

市議会HP
QRコード



9月定例会	2
市政Q&A	4
予算決算常任委員会総括質疑	12
常任委員会 審査報告	15
特別委員会 調査報告	18
議決結果	19

令和4年度決算を認定



作品名「うらはら」

小松市立高等学校普通科芸術コース美術専攻 3年生 細川 祐希 さん

9月 定例会

会期（9月4日～9月28日）
9月4日 開会

市長提出議案	2件
予算案	2件
条例案	3件
その他議案	5件
11日 一般質問（9人）	
12日 一般質問（7人）	
13日 各常任委員会（分科会）	
14日 各特別委員会	
15日 予算決算常任委員会	
21日 各常任委員会（分科会）	
26日 予算決算常任委員会	
28日 閉会	
市長提出追加議案	3件
議員提出議案	2件
※議案等の採決結果（P19参照）	

条例案等をチェック

市長から提案のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。（P15～17参照）

議員提出議案をチェック

（賛否はP19参照）

議案第4号 市長において専決処分することができる事項の追加指定について

議案第5号 表議員に小松市監査委員並びに小松市議会倫理推進委員長及び公共施設マネジメント検討特別委員長の辞任を求める決議

人事案件

教育委員会委員

浅蔵 一華 氏（八幡）

監査委員

西村 一伸 氏（矢崎町）

公平委員会委員

森本 栄史 氏（島町）

の任命・選任に同意しました。

本会議の討論

橋本議員から市長提出議案第65号及び請願第2号に対し、反対討論がありました。

決算をチェック

令和4年度決算については、予算決算常任委員会で審査されました。（P12～16参照）

令和4年度決算（歳出）

一般会計	540億9,358万円
特別会計	
国民健康保険事業	96億4,797万円
介護保険事業	96億9,922万円
公債管理	109億1,123万円
産業団地事業	20億9,915万円
後期高齢者医療	17億3,454万円

企業会計	
水道事業	22億5,080万円
下水道事業	39億342万円
小松市民病院事業	92億7,328万円



小松市イメージキャラクター
カブッキー

予算案をチェック

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。(P12～16参照)
主な提案内容を紹介します。

令和5年度補正予算

一般会計	補正額	6億382万円
特別会計	補正額	1億4,188万円
合 計	補正額	7億4,570万円

一般会計の累計

492億7,074万円

全会計の累計

1,077億1,562万円

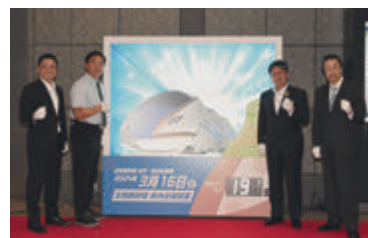
小松駅・空港間 自動運転バス運行費



【補正額】1億9,030万円

【内 容】小松駅・空港間の自動運転バス2台、遠隔監視機器導入等費用です。国の補助金(1.8億円)を活用し、自動運転レベル4に向け取組を加速・強化します。

新幹線小松駅開業 プロモーション費



【補正額】100万円

【内 容】2024年3月16日の北陸新幹線小松駅開業に向けて、県や関係市町と連携し、「新幹線車両歓迎セレモニー」等の機運を高めるイベントの開催やカウントダウンボードの設置を行います。

スタートアップ企業等 創業支援費



【補正額】300万円

【内 容】起業家育成を支援するため「Komatsuスタートアップラボ」を実施します。起業のハードルを下げ、起業家輩出等を通じて地域経済活力の向上を図ります。

小松市武道館改修費



【補正額】1億5,880万円

【内 容】市の武道及び屋内スポーツの拠点であり避難所に指定されている武道館の改修費です。利便性向上と避難所機能の強化のため、空調設備を設置します。

スキー場災害復旧費



【補正額】1,700万円

【内 容】7月12日～13日の大雨により、スキー場内の法面3か所が崩壊したため、法面部分の測量設計と復旧工事を行います。

放課後児童クラブ運営費



【補正額】2,800万円

【内 容】放課後児童健全育成事業の基準額の増額による費用です。

中消防署西出張所整備費



【補正額】5,970万円

【内 容】昭和50年に建築した西部地区(安宅、牧、板津)を管轄する西出張所の移転建設(用地取得等含む)費用です。





深田 博智（ふかたひろとも）議員

一括質問

小松市大倉岳高原スポーツ・レクリエーション施設設置条例の一部を改正する条例と旧金野小学校跡地利用について



動画でチェック

◆大倉岳高原スキー場の料金改定について

Q 料金改定に至った経緯について。

A 施設の老朽化が進み、今後継続的に多額の改修費用が見込まれることから様々な収支改善の取組をしてきたが、抜本的な料金改定は行わずにこれまで運営してきたこれ以上の経費削減には限界があることから、料金の見直しを行うものである。

Q 冬季期間以外の利用促進に向けた取組について。

A 近年、トレイルランはもとより、キャンプやテントサウナなど山岳資源を生かした様々なアクティビティーが全国的に人気となっている。自然環境や利用者の安全対策を最優先に考慮しながら、今後は民間事業者の方々にたくさん使っていただけるよう、いろいろな方と御相談しながら進めていきたいと思っている。

◆旧金野小学校跡地利用について

Q 旧金野小学校跡地の利活用の方性について。

A 本施設の利活用については、一時期、脱炭素関連の研究開発拠点として関心を寄せていた事業者もありましたが、事業化には至らず、一旦ゼロベースに戻し、改めて利活用に向けた調査や検討を進めているところである。本市としての施設活用の基本的な考え方としては、現在の利用状況や地元からの要望を十分に踏まえながら、民間の発想、ノウハウ、資金等を生かした持続可能な事業活動を行うことで、雇用や産業など地域活性化に資することが重要な視点だと捉えている。今後、民間提案型プロポーザルを実施し、広く事業提案を募集することを目指して、現在、資産評価や用地の測量などを進めている状況である。

◆北陸新幹線小松駅開業へ

Q 北陸新幹線小松駅開業前と開業後の取組について。

A 開業前の方針は、都市基盤整備と交流拠点機能の立地と集積で、公立小松大学の開学、團十郎芸術劇場つらら、Komatsu九（ナイン）の整備等実施してきた。開業後は、航空機の旅客機能拡充に伴う交流拡大のため、空港周辺エリアの交流拠点機能の立地と集積が重要政策方針と考えている。

Q 新幹線駅と空港の二大都市機能を最大限活かしたまちづくりにについて。

A 新幹線駅、空港エリアの近接性を生かし、二大重点エリアの一体性を高めるため、自動運転車両で接続する等、ルール＆フライトのイメージを高めていく。

◆国際交流について

Q 台湾とのさらなる交流に向けて。

A 7月の台湾訪問で、彰化市等を訪問し、魅力発信を行ってきた。また、南部中で台北市小学校



梅田 利和（うめだとしかず）議員

一括質問

世界に時めく
日本海側の拠点都市こまつ



動画でチェック

吹奏楽団を受け入れており、青少年の国際交流の機会を創出している。中学校修学旅行先に台湾を検討しており、実施に向け取り組んでいく。今後とも代表訪問団等受入れを継続し、顔の見える友好親善を図る。

Q 小松・ソウル便運航のインバウンド需要拡大への対策について。

A 韓国内ニーズを捉え、こまつ観光物産ネットワークで、温泉とゴルフとのヘルスツーリズムの商品を造成し、PRをしている。県や民間と連携し、インバウンド需要の取り込みを図る。

Q 日本海側の地域連携を模索するクラフトバレー構想について。

A 北陸新幹線沿線でものづくりが盛んな地域一帯をアメリカのシリコンバレーをなぞり、クラフトバレーと称している。広域連携で話題づくりとブランディングを図る。シリコンバレー研修をしている公立小松大学との連携が重要であり、大学の価値向上と学生の成長となる構想を期待しており、関係市と連携し、検討していく。



濱口 淳也（はまぐちじゅんや）議員

一括質問

動画でチェック

脱炭素と災害時の 公用車利用と都市計画道路



◆脱炭素（カーボンニュートラル）

Q 小松市は、令和3年8月に、2050年までに二酸化炭素排出を実質的にゼロにするゼロカーボンシティの実現を目指すことを表明したが、2年を経過して達成したことが今後について。

A 令和4年度からエコジョーパークこまつで発電した電気を市役所、市民病院に供給している他、公用車を順次EV、HVに転換している。

また、今年度からはESCO事業による道路灯、公園灯の早期LED化を進め、2030年に中間目標としてCO₂排出量50%削減を掲げている。

これまでのCO₂排出量の実績について、現在の最新データは2020年となり、2013年度比で約40万トン、31%の削減を行い、2020年度現在の排出量は約84万トンとなっている。

◆災害時の公用車利用

Q 災害時における公用車（電気自動車）の利用について。

A 災害時の電気自動車の利用について、石川日産自動車に加え、令和4年10月に石川トヨペットカローラとの災害時における電力供給に関する協定を結んでおり、外部給電可能な車両を避難所等へ配置し、非常用電源として活用できるようになっている。

一方、公用車は避難状況の確認や避難物資の輸送など災害対応が最優先される。EV公用車の臨時電源の活用については、状況に応じて対応を検討していく。

◆都市計画道路

Q 松任町白江線について。

A まちづくり構想も見据えて、今年度内に次期整備路線を決定したいと考えている。未来型図書館・芦城公園を一体的に活用する整備計画を進めており、まちづくりとしてその周辺へのアクセスや都市計画道路の位置づけ、概算費用等をつかり検証し、市長と共に確認しながら進めていきたい。



吉柴 文悟（よしばぶんご）議員

一括質問

動画でチェック

市民生活の安心と安全の さらなる向上のために



◆小松市におけるデジタル化

Q 身近なサービスや施設に関してデジタル化が不十分だと感じるが、市としてどのような考えか。

A 申し込むために施設窓口を訪問する、あるいは手書きで申請するというような手続きの簡略化は重要だと考えており、利便性やサービス向上の観点からもデジタル化に積極的に取り組んでいく。

◆地域医療のデジタル化

Q 地域医療のデジタル活用支援に関する連携協定を締結したUbie株式会社が提供するスマホアプリ「ユビー」において、病院の空き状況、待ち時間がリアルタイムで表示できるように機能追加を働きかけることはできないか。

A 機能追加は、現時点で課題が大きいというUbie株式会社の見解だが、市民の暮らしやすさの向上につながるため、今後も小松市医師会、医療関連企業などとも意見交換を重ねていく。

◆市民スポーツ大会について

Q 今年で75回目と歴史を重ねてきた。過去の大会結果などの歴史を紙ではなく、気軽に見れるようにできないか。また、参加手続き等で校下スポーツ協会の負担軽減の方策はないか。

A 大会を盛り上げていくため、過去の成績や大会の様子が分かるような仕組みづくり、校下スポーツ協会の業務をデジタル化によって軽減するなど、運営における改善を検討していきたい。

◆交通安全対策について

Q 市道幸町八幡線における交通量の増加に伴う交通事故対策は。

A 本路線の一部区間にドライバーに対する注意看板、それから路面標示を追加し、本道路に取りつく枝道についても、停止線を夜間発光させるほか、減速を促す路面標示を追加するなどを施し、小松警察署とも協議しながら、交通事故防止のための安全対策の向上に努めている。



斎藤 和美(さいとう かずみ)議員

一括質問

動画でチェック

子供達が、社会の中で生きる力を
育む事を目指す
こどもまんなか社会を目指す



◆子供の社会性を育む活動の推進について

Q こどもまんなか社会の現実に
向けた取組の推進について。

A 子供の主体性を引き出し、尊重するための取組を、来年度策定予定のこども計画において反映させ、こどもまんなか社会の実現を推進していく。

Q ちびっ子マーケットの開催の実現を。

A 市としては、広がりつつある子供の社会活動への積極的な参画を促す民間を様々な機会を通して後押しする。

◆北陸新幹線小松駅開業に向けてのにぎわいについて

Q イベントの情報発信ツールや集客について。

A Komatsu九(ナイン)のホームページでの情報を発信していく。また、より多くの市民の方々に一緒に広告塔になっていただ

き、雑誌・メディア・SNSなど、これまで以上に多くの媒体を通じたプロモーションを実施していく。

Q イベント情報の発信の一本化を。

A 現在、市において全ての情報を把握することは大変困難である。また、掲載内容の基準や内容確認等の課題もある。しかし、AIを活用した情報収集も進んでおり、今後の情報一本化については、研究課題とする。

Q 小松駅開業に向けた今後のにぎわいについて。

A 石川県との連携事業『カウントダウンボード』の設置や新幹線車両入線歓迎セレモニー、開業イベントなどを、官民が一体となって新幹線開業の機運醸成をさらに加速させていく。



岡山 晃宏(おかやま あきひろ)議員

一括質問

動画でチェック

防災力の強化に向けて

◆中小学校の防災について

Q 東日本大震災での津波被害を受けた大川小児童の遺族が起こした裁判の判決で「校長らは児童の安全確保で地域住民よりはるかに高いレベルの知識と経験が求められる。学校の危機管理マニュアルを改訂して備えを充実すべき。」と述べ、遺族側の勝訴となりました。そこで、学校が策定している危機管理マニュアルの内容と改定は。

A 火災、震災、不審者、気象災害など各学校の実情に応じて個別のマニュアルを作成し、毎年見直しを図っている。また、昨年の豪雨災害を受け、内容の見直しを行い、具体的な対応について再確認している。内容については、町内会、警察署、防犯隊、PTA等と共有を図り、地域との連携を大事にしている。

Q 教職員の高いレベルの知識と経験に向けた取組は。

A 県や市の管理職研修でも、リスクマネジメントを学ぶ機会が設けられ、市長会では小松市水防タイムラインについて周知を図った。教頭会でも、専門家を招いてワークショップ型の研修会を行うなど、積

極的、具体的に動きを知るという行動につながっている。

Q 災害時における学校側の責任についてどうお考えか。

A 判決理由の文言は、教育に携わる者にとって肝に銘ずべき言葉であると捉えており、校長をはじめとする教職員の意識のさらなる向上に努めていく。

◆防災情報の周知について

Q 防災行政無線のメンテナンスと更新の時期は。

A 業者による定期点検を毎年実施し、ハードディスクなど耐用年数のある部品は定期的に交換を行っている。

◆スポーツ観戦の充実について

Q カヌーの聖地として多くの合宿や大会が開催されている木場潟カヌー競技場に観戦席を設置してはどうか。

A 日本カヌー連盟等から、スタンドを設置すると大会運営に支障が出ると聞いている。また、木場潟の自然景観を損ねる懸念も出てくるため、現状のままとしたい。



吉本 慎太郎(よしもと しんたろう)議員

一括質問

動画で
チェック

小松市の喫緊の課題、 未来の課題について



◆中心商店街アーケード問題

Q 現状の課題は。現在どのような話し合いがされているのか。

A 3商店街振興組合と市で意見交換を重ねている。アーケードは各商店街振興組合の財産で、費用負担等組合が検討する必要がある。



1975年に完成したアーケード

Q このエリアは新幹線開業後のキーポイントとなる。アーケードの撤去、存続、そのいずれにも明確なまちづくりのビジョンが必要。

A 商店街で撤去、改修など今後の方向性が決まり次第、市も共に取り組んでいく。

◆北陸新幹線小松駅開業

Q 開業まであと半年。市民一人一人が「百年に一度」の好機を実感できる機運の醸成と施策を。

A 新幹線定期利用による通勤・通学支援制度も検討しており、

新幹線利用者の増加と定住・移住の促進を図っていく。

Q 東京直通増便へ向けた活動を。

A JRへの働きかけとともに、多くの方々に新幹線駅を利用してもらえよう、明るく賑やかなまちづくりに向け取り組んでいく。

Q 一方、関西圏、中京圏への乗換え負担についての対策を。

A JR西日本により、乗換え負担の配慮がされており、そのことも周知するとともに乗換えをしても小松へ行きたいと感じてもらえるよう取り組んでいく。

◆こまつドームアリーナ整備計画

Q 交渉の進捗状況は。

A 優先交渉権者決定のため、事業収支計画の実現性等、提案者や関係者等への調査を続けている。

Q 公営競技を導入するにあたり、運営上の課題、経済的波及効果、市民への理解等。こまつドーム「小松」の地で行うことの検証を。

A 運営や契約等市が抱え得るリスク等を専門家と相談をしており、採用の可否は慎重に考えていく。



橋本 米子(はしもと よねこ)議員

一括質問

動画で
チェック

マイナンバーカードの普及について



◆マイナンバーカードの普及について

Q この間取組が進められているがどの様な取組がされてきたのか。また、申請者と交付者数を問う。

A 市独自の取組は、申請者に特典を贈呈する普及促進事業や庁舎のサポート窓口の開設など。令和5年8月末現在の申請者数は9万2,385人、交付者数は8万3,159人である。

Q 最近ではマイナンバーカードとのひもづけによるトラブルが多く報道されている。市でのトラブルはどうであったか、内容を問う。

A 小松市で、個人情報情報のひもづけ誤りはない。しかし、昨年、他の方へのマイナポイントの付与誤りが1件あった。原因は国のシステムの操作誤りで、システムは改修を終えている。

Q 全国的にマイナンバーカードの返納が増えている。市の返納状況はどうであったか。自主的な返納数とその理由について問う。カードの返納に込められた市民の思いを

軽く見てはならないと思う。

A 返納は13件。理由は、カードは不必要が4件、カードへの不信感が8件、自己都合が1件。

Q 相次ぐトラブルの中の総点検の実施状況について問う。

A 国が指揮をとり、令和5年秋の点検終了を目前に実施しており、小松市は、現時点で誤登録やひもづけ誤りはない。

Q カードに健康保険証機能を持たせる「マイナ保険証」の小松市の保有数と保険証登録者数について。また、国に保険証を廃止しないよう中止を求めて頂きたい。

A 市保有者の内、健康保険証登録者数は、公表されていないが、全国では、登録割合(8月末)は74・1%である。健康保険証との一体化は、国の政策で、市としては中止を求め

るものではない。



健康保険証廃止の中止が求められている



川崎 順次(かわさきじゅんじ)議員

一括質問

今、増えている嘘等で誹謗中傷する人たちにどう対応するのか



動画でチェック

◆生成AI(人工知能)導入について

市役所での導入は、シリコンバレーに行ってみたことは。

生成AIに関する利用ガイドラインを制定した上で、7月18日に職員研修を実施し、業務利用での試行をスタートしている。引き続き、生成AIのより良い活用方法を検討していく。

シリコンバレーでの研修は、産官学連携の面で非常に意義深く、三者の強みを活かした共創のサイクルがより強固になった。

Q 学校での導入計画は。

A 情報を正しく判断し、適切に使いこなす資質・能力の育成を目指し、生成AIをはじめ情報端末の活用を積極的に図っていく。

◆これからの小・中学校の教育について

Q この夏の全国高校野球甲子園大会で優勝した慶応高校の監督が掲げるエンジョイベースボールの精神は自主性を重視したもの。学校や地域と協力して、自主性や社会性を高める教育に取り組まれてはいいか。

A 子供たちの主体性、自主性等の心の自立を大事にした教育

の充実を図っていく。

Q LGBTにどう向き合うか。

A 複雑化する一人一人の背景、問題に寄り添いながら、すべての子供たちに対して学校が安心して楽しく学べる魅力ある環境となるよう努めていく。

◆小松市の交通アクセスの重要性について

Q 都市計画道路城南村松線、主要地方道小松加賀線の安宅新から片山津IC間、国道8号小松バイパス粟津ICから加賀市箱宮IC間の4車線化について。

A 引き続き、公共インフラの整備促進を国や県に強く要望していく。

◆インターネットなどでの誹謗中傷被害者を支える

Q 条例施行について。

A 全国の条例などを研究していきつつも、まずは発信者、投稿者は法に抵触し、ひいては損害賠償請求の対象になる場合もあるということを広く周知啓発し、その防止に努めていく。

◆音声コード利用促進について

Q 公的な通知文書や広報等の印刷物・通知書類等の音声コードの記載は。

A 小松市では、こまづ障がい者プランの冊子等に掲載している。その他、広報こまづ等は、音訳をホームページに掲載し、音声版CDの配布。特定健診等の通知等は点字による文書送付。

Q この音声コードの普及を早急に進めるための考えは。

A 音声コードはもとより様々なツールを、状況や場面に応じて適切に活用して情報共有、情報伝達に努めていく。



音声コード

◆オストメイト課題について

Q 日常生活用具給付事業の給付推移について。

A 日常生活用具給付事業は、在宅の重度障がい者が対象で、

片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員 一括質問
視覚障がい者のための音声コードの利用促進を



動画でチェック

基準額の1割負担で給付を受けられる制度。給付状況は、令和4年度では1年間で蓄便袋約1,700件、蓄尿袋は273件で、数字はほぼ横ばいの状況。

Q 装具費用の値上がりの対応は。

A 価格の推移は現状維持とのことであるが、今後の推移、オストメイトの方の自己負担状況も注視し、判断していく。

◆単身高齢者と終活支援への取組

Q 小松市の独居高齢者の状況は。

A 2020年度国勢調査では、65歳以上世帯の独居世帯数4,263世帯で、総世帯の1割を超えている。

Q 終活情報伝達事業など終活支援についての取組は。

A 自らの思いを周囲の支援者に伝える「はつらつシニアかんじん帳」の作成・周知、成年後見制度の周知、専門職による特設市民相談の開設がある。



中西 肇(なかにし はじめ)議員

一括質問

賑わい創出と安心安全なまちづくり



動画でチェック

◆新幹線開業後の賑わい創出

Q 今秋は、全国国府サミット、加賀国府ゆかりの地ウォークラリー等加賀立国1200年関連事業で賑わっているが、来年の賑わいづくりは。

A 「全国花のまちづくり小松大会」を、令和6年5月に團十郎芸術劇場つらら等で開催し、地元団体の事例発表、庭師・俳優の村雨辰剛氏の特別記念講演等を予定している。また、「花と緑のまちづくり全国首長会」の開催も決定している。全国へ小松大会をPRする絶好の機会でもあり、花や自然を生かした地域活性化、観光振興につなげたい。

◆安心安全なまちづくり

Q 下水サーベイランス・下水モニタリングは、先進的で素晴らしい取組であるが、今後の展開は。

A 今後は、国の事業化、制度化に向けた関係機関への要望活動を実施したい。また、自治体への下水サーベイランス導入に向けた取組事例、ノウハウの提供など全国へ

広げるための活動を積極的に行っていきたい。

Q 下水道事業で新技術導入事例は。

A 小松マテリアル株式会社が自主開発したバイオ製剤を用い、農業集落排水施設の汚泥減容化事業を開始している。今年度は、中海地区処理場等3か所で導入し、日末地区処理場等3か所で実証試験を実施している。また、中央浄化センターでは、下水処理過程で発生する消化ガスを利用したバイオマス発電を実施し、電力削減と二酸化炭素排出削減をしている。

Q 下水道整備を進め、汚水処理人口普及率100%を目指せ。

A 近年においては、処理場の耐震化や水処理施設の更新等、持続可能な下水道事業を推進している。今後、未普及地区整備にあたっては、受益者負担などの個人負担が生じることからも、町内会や住民の皆様への説明会を開催し、整備効果が発揮できるよう、接統意向の高い地域から進めてまいりたい。



木村 賢治(きむら けんじ)議員

一括質問

市内の酷暑日及び熱中症の状況



動画でチェック

◆KUTANISMとセラボ九谷

Q シェアサイクルの回遊ルートを作成してはどうか。

A モデルコースを作成予定。

Q 大きく見やすいセラボ九谷の看板を新設してはどうか。

A 今年度中の設置を検討する。

◆学校の地域開放

Q デジタル鍵管理システムを導入してはどうか。

A 学校・地域の双方が安心して利用できるよう研究する。

◆避難所運営協議会と避難訓練

Q 1年間の避難所開設状況は。

A 33か所開設し、1,758名が避難した。運営協議会による開設はなかった。

Q 運営協議会の予算、人的リソースは。

A 予算は訓練実施費用、防災資機材整備等へ補助を行っている。人的には防災士の派遣や活動支援を行っている。

Q 学校の避難訓練の実施状況は。

A 年間3回以上、地震・火災・不審者・水害に対する訓練を

実施。消防士・警察官からの直接指導で防災意識を高めている。

◆市内の酷暑日及び熱中症

Q 農作物への被害状況は。

A コシヒカリは高温による品質の低下、トマトは日焼け等が確認されている。

◆8月の熱中症の救急搬送は。

Q 搬送は43名で内訳は、中等症10名、軽傷33名となっている。今年度の年間搬送件数は昨年並みと見込んでいる。

◆教育機関の熱中症の取組及びクーラー稼働状況は。

Q 各校が暑さ指数を測定し、活動の中止・変更を判断している。具体的には、登校をオンラインに変更、部活動の時間短縮、水分補給タイムを設けるなど。空調は状況に応じて調整している。

◆インターネットを利用した北陸新幹線小松駅開業のPRについて

Q 現在の取組、予算、開業に向けたプランについて。

A 東京FM、インフルエンサーマーケティングを活用する。



南藤 陽一（なんとう よういち）議員

一括質問

ゼロカーボンシティの実現に向けて



動画でチェック

◆第2次小松市地球温暖化対策実行計画について

Q これまでの取組とそこから見えた課題、それらを踏まえての今後の取組は。

A 家庭や事業者、町内会向けに各種補助制度等を実施。脱炭素化に向けて市民や事業者がどのように取り組んでよいのか分からないという意見が聞こえており、広報こまつ等により分かりやすく示していきたい。

Q 市民向けの分かりやすいアクションプランの作成とCO₂排出量の見える化を図っては。

A 広報こまつで、環境省のゼロカーボンアクション30の具体例を毎月コラム掲載している。また、実行計画において具体的なCO₂削減量の見える化をしているが、今後は市ホームページなどで、より分かりやすく掲載し、さらなる普及啓発に努めたい。

◆省エネ住宅に対する補助制度の創設について

Q 「建築物省エネ法」の改正に伴い、高性能省エネ住宅の推進に向けた補助制度を検討しては。

A 国や県の支援の行き届かないところを中心にきめ細やかな支援をすることにより、省エネ住宅の普及促進を図ってまいりたい。

◆グリーンインフラ推進戦略について

Q 施設の老朽化に伴う移転が話題となった「粟津公園」だが、未来に守るべき南部のシンボルと考える。現在、芦城公園内の施設の統廃合が検討されているが、本市における都市公園の機能・役割と施設との関係性について問う。

A 公園の役割は、レクリエーションやコミュニティで人々の心を和ます場であり、木や花などの自然を育てる場所である。また、災害時には避難場所にもなり、人々の安全な生活を支える重要な役割がある。

Q ゼロカーボンシティの推進に向けて、本市の公共施設マネジメントの中にグリーンインフラの考え方を取り入れては。

A 建物などの公共施設については、新築や改築時に屋上緑化やグラウンド緑化などの方法も取り入れて、緑化機能を推進する考えである。

◆旧Aコープ（空き店舗）利活用の行政支援策について

Q 旧Aコープの行政支援策は。

A ハード・ソフト両面で事業のすみ分けなどがあり、相談を受けながら一緒に考えていきたい。

Q 旧Aコープの空き倉庫を防災備蓄倉庫に活用できないか。

A 市内に防災用備蓄倉庫が6か所あり、十分な備蓄体制を整えている。倉庫を活用する予定はない。

◆地域のデジタル化の推進は

Q 結ネットの3年目以降の財政支援はあるのか。

A 導入時の2年間にわたる補助制度を3年目以降も延長する予定はないが、専門派遣は支援する。

Q ふるさと納税で地域のデジタル化を促進しては。

A 企業版ふるさと納税は安定財源ではないため、寄付継続を前提とした事業を計画することはない。

◆農業ため池の防災対策について



村中 洋（むらなか ひろし）議員

一括質問

旧Aコープ（空き店舗）の活用支援、結ネット運用の財政支援、ため池の防災対策、建設業の働き方改革の支援等を聞く



動画でチェック

Q ため池の日常点検を実施しているのか。

A 毎年6月に基準に基づいた一斉点検を行っている。

Q ため池内の土砂の維持管理は。

A 土砂が堆積し、貯水容量が著しく低下した場合は調査を行い、必要な箇所を県が市で行う。

Q 地域を守るため池の防災対策工事の実施状況はどうか。

A ため池の劣化状況、耐震性、豪雨対応調査を行い、優先度の高い箇所から工事を行っている。

◆地域建設業の働き方改革の支援について

Q 令和6年4月から始まる建設業の働き方改革への対応は。

A 県の基準に従い、令和6年度から週休2日工事として適切な工期設定を行い発注する。

Q 熱中症対策に係る費用は計上しているのか。

A 県に準じて、現場管理費の補正を来年度から実施したい。

Q 現場の施設や設備に対する熱中症対策の費用計上は。

A 冷水機、大型扇風機など、県の運用等を参考に検討したい。



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一問一答

市職員2千人に初調査 パワハラの実態は



動画で
チェック

◆市職員のハラスメント調査

Q 初となる調査のきっかけは。

A 昨年11月に職員から受けた相談。

Q 調査の概要と結果は。

A 市職員等2千人を対象に匿名調査を実施。回答者780人のうち「パワハラを受けたことがある」は20%。

Q 調査結果を踏まえた取組は。

A パワハラの疑いが強まった特定の部署を実名で再調査し、74人が回答。現在、事実関係を整理している。

Q 事実関係を整理した上で、いつまでにどのような処分を下すのか。

A 速やかに厳正に対処し、事実が確認されれば、懲戒審査委員会を経て、懲戒処分の対応となる。

Q 今後のパワハラ予防の取組は。

A 全職員を対象に専門家を招いての恒常的かつ再発させない研修体制を構築していきたい。

◆消防団員の確保に向けて

Q 団員が転勤等で一定期間間活動を休止しても団員の身分が

保持される休団制度を導入してはどうか。

A 消防団活動検討委員会で検討し、その結果を踏まえ制度導入を検討したい。

◆脱ペットボトルを！

Q 公共施設の自動販売機でペットボトルの販売を止めてはどうか。

A 自販機の設置業者にペットボトルの率を下げることでできないか相談していきたい。

Q 市販売のペットボトル飲料水を廃止してはどうか。

A 2019年度から代替品を検討してきたが、見つからないため、今後も随時調査検討していきたい。

◆インボイス制度とシルバー人材センター

Q 10月から始まるこの制度にセンターはどう対応するのか。

A 税制上の特例措置は認められず、当初予算で消費税分200万円を計上した。ただ、税控除される経過措置が終了すれば2千万円の負担が常に発生するため、発注者に対する事務費の見直しも検討する。



宮西 健吉(みやにしけんきち)議員

一問一答

どうする市長



動画で
チェック

◆本庁舎における管財課の役割は何か

Q 熱中症対策で暑さ指数とは。

A 湿度、日射・輻射などの周辺環境、気温の3つを取り入れた指標。

Q 小中学校で暑さ指数計測計はどの様に利用されているのか。

A 体育の授業、休み時間の外遊び、部活動を目安として利用している。

Q 本庁舎には暑さ計測計はあるのか。

A 1基保有している。

Q 本庁舎の空調管理は。

A 暑さ指数により管理している。

Q 今年の暑さで庁舎西口、南口、北口の緑地帯のツツジが枯れている。問題は中庭の松とツツジである。造園業者の診断は。

A ツツジは回復の見込みがあるが、松は困難との見解である。

Q 来年の全国花のまちづくり小松大会を控えて、樹木はだめ、

花もだめ、どうするのか。

A 管財課としては答えかねる。

Q 消雪装置の改修工事は。

A 2系統の内、今年度は来庁者の多い系統を直し、他の系統は計画的に修繕を行っていく。

Q 正面入り口の横断側溝の改修工事は。

A 来年度予算措置を行い、速やかに修繕したい。

Q 駐輪場の塗装の塗り替えは。

A 定期的に実施したい。

Q 本庁舎の管財課の役割は。

A 来庁される皆様、働く職員が過ごしやすい庁舎環境を提供していくことを考えている。

Q 花と緑のまちづくり大会にむけてどうする市長。

A どういうことができるかについて、専門家とも相談しながら一番いい形で、また、持続可能な形でやっていけるものを模索していきたい。

予算決算常任委員会総括質疑

令和5年度9月補正予算

◆会派自民◆

東浩一 委員



動画でチェック

◆中消防署西出張所整備費

Q 建て替え整備に至る経緯は。

A 現在の庁舎は昭和50年5月に建築され、小松市消防団第3安宅分団と第4牧分団が併設、築48年が経過、消防本部の中で最も古く、旧耐震構造で、老朽化が進んでいる状況。

Q 移転する候補地概要は。

A 候補地は、長崎町4丁目39番地、敷地面積は2、853・06平米、用途区域は準工業地域で、一般住宅がなく、各方面への道路アクセスもよく、最適な場所と考えている。

Q 施設構想と竣工までの計画は。

A 女性専用室の整備など働く環境を整え、現在併設の第3・第4分団を新庁舎においても併設、水難事故を考えた施設も検討。令和7年に実施設計、令和9年竣工予定。

◆地産地消・食育推進費

Q 環境保全型農業の内容は。

A 環境負荷の低減や生物多様性の保全を図る目的で、化学肥料や農薬を通常慣行レベルの使用に比べ削減した農業である。

Q 特別栽培米の学校給食への提供拡大について。

A 特別栽培米の産米の提供期間を10月から2月までの62日間に拡大し、うち1回を化学肥料9割、農薬を7割以上削減の特別栽培米えちやけなを提供する。

Q 取組を食育に活かす方策は。

A 今年度は、県と連携して環境保全型の農業の意義や重要性が分かるような動画の制作、その動画を見るQRコードをつけた啓発チラシを全小中学生に配布予定。

Q 農産物小松産ブランド戦略において特別栽培米への支援方針は。

A 小松産のブランド化についても、特別栽培米の拡大を含めて、小松の水や土、豊かな自然や気候風土の特徴を生かした、農業への取組や作り方に着目し、ブランド化を図りたい。

高野哲郎 委員



動画でチェック

◆小松駅・空港間自動運転バス運行費

Q 1台当たり7、700万円のバスを2台購入する事となつていますが、どのような仕様のバスなのか。また、信頼性は担保されているのか。

A BYD社の電気自動車型のバスで、自動運転車両に改造を加えたもの。車両事故等にも対応できるように2台体制としている。

Q EVバスの定常運行はいつから始まり、その時はどのレベルの自動運転になるのか。

A 新幹線開業前には、ドライバーによる監視が必要となるレベル2で走らせたい。

◆小松志士の会◆

濱口淳也 委員



動画でチェック

◆スマートシティ・スマート市役所推進費

Q 市庁舎4階、7階の執務スペースフリーアドレス化とは。

A タブレット端末等を活用し、自由に座席を選択できるものだが、今回は、フリーアドレス的なオフィス環境づくりを進めるもの。

Q 失敗している企業もあると聞くが、課題や対策は。

A 固定机や脇机を配備せず、タブレット端末等を通じて必要な情報にアクセスするワークスタイルとなり、ペーパーレス、情報のデジタル化が必要不可欠となる。対策として、8月に管理職及び一般職向けに説明会を実施した。

◆自民党こまつ◆

吉村範明 委員



動画でチェック

◆小松駅・空港間自動運転バス運行費

Q 事業の目的は。

A 利便性を高めた移動環境の構築や人流創出・拡大と経済波及効果など。

Q これまでの経緯は。

A 令和2年度に国の実装事業の採択を受け、協議会を組織し、具体的計画を検討。民間4社との連携協定を締結し、今年3月に実証実験を実施。

Q 補正予算の内訳は。

A 協調型自動運転技術、遠隔監視機器、車両の導入などの費用。

Q 市長が直接省庁へ出向き交付金を確保したと聞いた。国補助金の概要(補助率、補助限度額)は。

A 補助率10/10、上限額1億8、000万円満額が認められた。

Q 自動運転バスのスペックについて仕様と性能は。

A 基本的仕様に加え、自動運転に必要な各種センサーやカメラを搭載。

Q 自動運転バス事業の期待される効果は。

A 全国から注目されることにより、未来技術の実装に挑戦するまちとしての地域風土が醸成され、新たな産業創出にも期待している。

Q 今後の取組は。

A 他エリアへの展開も今後検討していきたい。また、自動運転は、交通事故やドライバー不足等の解決に寄与する技術と考えている。今後、新たな意味を持つ「ウラ日本」として、新しい地域づくりを目指していく。



川崎順次 委員



動画でチェック

◆ スポーツ施設の充実について

Q 小松市武道館の整備内容等について。

A 武道館については、柔道場、剣道場、体育室に空調設備を設置する工事を令和5年度に着手、令和6年度に完了する。

Q 空調設備について屋内施設の整備状況は。

A 小松総合体育館は既に空調設備を設置済み。末広体育館は、令和7年度に設置を予定。

Q 設置の完成はいつ頃になるか。

A 令和7年度に設置終了する。

◆ 屋外施設の整備について

Q 今後、陸上競技場やサッカー場、ラグビー場について、民間企業とタイアップして整備を行ってはどうか。

A 新たな施設の建設にあたっては、南加賀エリア全体で考え、県や近隣市町とも連携しながら進めていきたい。

Q 小松、能美で松井球場を建設できないか。

A 非常に夢のある話。夢というより目標としてどのような条件が整えばできるのかを考えていきたい。

Q 陸上競技場は小松の顔。その陸上競技場のスタジアム建設に向けての思いは。

A 今後、市として、南加賀としてどういった大会を誘致するのかを地域のスポーツ協会等とも話をしながら検証していく。

Q 陸上競技場の中に芝のラグビー、サッカー場が出来ないか。小松市が競技力向上、競技場の充実を進めていただきたい。

A 石川県全体の構想が大事であり、知事とも協議しながら進めたい。

令和4年度決算

※会派自民※



東浩一 委員



動画でチェック

◆ 新産業団地調査費

Q 17か所の調査項目は。

A 交通アクセスなどの10項目で評価し、最終的に3か所を選定。

Q 工業用水新設への補助は。また、水利の調査項目追加は。

A 平成11年に工業用水の水源利用可能性調査を実施し、非常に困難と判断されている。現在行っている調査地点で地下水の利用状況のデータがない場合は、追加調査の実施も検討したい。

Q 企業誘致立地助成金制度への反映は。

A 企業が取得する土地や建物を含む設備整備など、雇用促進助成金等と合わせて最大10億円の助成があり、井戸水の掘削等の経費も対象となっている。



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆ 学校給食費

Q 今決算では中学校分が無償化の対象となっているが、生徒の反応、保護者の皆様の評価をどの様にとらえているのか。

A 児童生徒アンケートからは、「おいしい」と答えた割合が95%あり、満足度が大変高かった。保護者アンケートからは、「家計負担が減り大変ありがたい」の声があった。

Q 給食事業受託業者の事業停止というショッキングなニュースがあったが、小松市の給食事業は大丈夫なのか。

A 委託形態が異なるため、影響はない。

◆ ふるさとこまつ応援寄附金

Q ふるさと納税の収入は2億円以上とあるが、返礼品の費用や小

松市民の方が他の自治体に寄附をされて減収分等を含めるとふるさと納税事業の決算額はいくらかなのか。

A 6、272万5千円のプラスとなる。

Q 北陸新幹線小松駅開業に合わせ、ふるさと納税を増やす方策は、

A 目に留まるような写真の使用や、作り手やストーリーが見える魅力的な紹介ページの制作。航空祭駐車券や海鮮類など新規返礼品の開発。サイトにおける閲覧性や回遊性の向上などを、中間事業者や市関係部署と連携して取り組んでいきたい。

◆小松志士の会◆



中西肇 委員



動画でチェック

◆未来型図書館づくり推進費

Q 令和4年度の事業の成果は。

A 基本構想策定委員会や市民ワークショップを通じて、基本構想を策定した。市民と共につくり続ける体制づくりが進んだ。

Q 基本構想で立地場所を芦城公園周辺に絞り込んだ理由は。

A 策定委員会でビジョン・コンセプトとの親和性、公共施設マネジメント等から総合的に評価し、立地

エリアを決定した。

Q 芦城公園内の施設再編、駐車場整備等の課題への対応は。

A 庁内に推進チームを組織し、公共施設マネジメント事業と一体的に検討を進める。

Q リビングラボの役割は。

A 未来型図書館づくりは、市民と共に創ることを重視して進める。市民、事業者、行政等が参画するリビングラボのような組織が地域課題解決のプラットフォームになり得る。



木村賢治 委員



動画でチェック

◆ICT教育環境推進費

Q ギガ端末の買換え時期、準備は。

A 令和7年に更新予定。未来教育推進基金積立金にて準備。

Q 文部科学省の補助金は活用しないのか。

A 国の話でまだ分からない。3分の2の補助金を想定し、残りの3分の1について積み立てている。

Q A-1は教員の職を奪うのか。

A A-1は社会の在り方に関わる大きな問題である。単に教員の職だけにとどまる問題ではない。A-1に

よる教育の支援はどこまで可能なのか。A-1との共生社会と学校について私たち教育者がしっかりと考えていかなければならない。

◆無会派◆



木下裕介 委員



動画でチェック

◆子育て短期支援費について

Q 対象とならない1歳半未満の乳児はどのように支援するのか。

A 市内に乳児院がないため、金沢の乳児院に委託しているが、近年実績はない。里親であれば利用が可能。

Q 現状、里親の受入れ状況は。

A 2家庭が里親登録されているが、利用にはつながっていない。

Q 里親に支払われる委託料は。

A 夜間預かりは1回につき平日1、500円、休日2、700円。

A 宿泊は2歳未満1万700円、2歳以上5、500円。

Q 夜間預かりは委託単価が安い。委託料の引き上げを。

A 国基準より高めに設定し、他市町と同水準の金額であり、利用者のニーズ等を踏まえ、適切な対応に努めたい。

議会中継 録画配信中

小松市議会ホームページでは、過去の本会議の録画映像を配信しています。

昨年より、パソコンでの視聴に加えて、スマートフォン、タブレット端末からもご覧いただけるようになりました。ぜひご利用ください。



パソコンの場合はこちらから。

常任委員会 審査報告

予算決算

委員長 梅田 利和
副委員長 宮西 健吉
全議員所属

議案第58号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第3号)について

■地域交通推進費(5,000千円)

生活路線バスを運行しているバス会社へのキャッシュレス乗車システム導入支援に係る費用です。クレジットカードとアイカに対応となっているが、観光客の更なる利便性向上を図るため、全国的に使用割合の高い交通系ICカードも利用できるように望む意見がありました。

■小松駅・空港間自動運転バス運行費(190,300千円)

補助金1億8千万円を活用し、自動運転バス2台の導入や車両改造等に係る費用です。小松をPRできるラッピングバスにしてほしいとの意見がありました。また、高額であるので、バッテリー交換や故障の際に適切な対応ができるよう十分に検討した上での慎重な契約を求めました。

■放課後児童クラブ運営費(28,000千円)

放課後児童健全育成事業の国の基準額が改定されたことによる運営費の増額分と放課後児童クラブ職員の待遇改善等を行うための費用です。

■小松駅ターミナルプラン推進費(25,000千円)

小松駅周辺の歩行空間の魅力アップ工事に係る費用です。痛みが激しい西口広場の既存シエルトの柱の塗装改修、東口とサイエンスヒルズこまつをつなぐ80スクエアの椅子の改修、案内誘導看板の追加、駅東口広場に椅子の設置等を行うものです。80スクエアの椅子の改修については、イベント時のプロジェクションマッピングがよく見えるよう、設置場所についても検討するよう意見がありました。

■地産地消・食育推進費(1,450千円)

小中学校の給食に特別栽培米(産米)等を提供し食育活動を行うことにより、環境保全型農業に対する理解を促進する費用です。10月から12月の産米提供を県と連携し、2月まで延長するものです。また、この期間中に1回だけ、ブランド米「えちやけな」も提供する予定です。

児童生徒が持つタブレット端末を活用して、特別栽培米などの周知や環境保全型農業に対する理解促進としてはどうかといった意見がありました。

議案第65号 令和4年度小松市歳入歳出決算の認定について

■一般会計における職員人件費(5,277,824千円)

市民病院や上下水道局等の職員を除く一般会計における職員1,16

3人(うち会計年度任用職員539人)に係る人件費です。

全職員数における会計年度任用職員の割合は高い状況にあり、正規職員の増員を検討してほしいという意見がありました。

■地域協議会活動補助金(5,724千円)

地域協議会等が、結ネットなどICTツールを活用した情報伝達手段の選定や検討を行うための費用を支援するものです。

地域協議会等が導入後も継続して利用しやすいよう、3年目以降の支援や補助率引き上げについて検討してほしいという意見がありました。

■歳入のふるさとこまつ応援寄附金(226,557千円)

令和4年度の個人版ふるさと納税の寄附額です。寄附額から、小松市民が他自治体へ寄附したことによる住民税の減収額及び、減収分の普通交付税措置、返礼品購入やポータルサイト利用料などを勘案した、令和4年度のふるさと納税の実質的な決算額は約6,272万円であったとのことです。

利用者目線での魅力ある商品開発など、より一層寄附額が増えるよう今後も努めてほしいという意見がありました。

■養護老人ホーム措置費(233,123千円)

環境上あるいは経済的理由により、在宅での生活が困難な高齢者に対す

る養護老人ホームの入所措置費等です。

本制度を必要な方が利用できるよう、より一層、制度の周知と受け入れ体制の充実を求めました。

■家族介護用品支給費(18,274千円)

及び保健福祉充実費(20,070千円)

要介護3以上の在宅高齢者に対する介護用品の購入助成費です。一部の委員からは、利用者の1割負担に反対する意見がありました。

■老人福祉センター運営費(22,834千円)

老人福祉センター「千松閣」の管理を、小松市まちづくり市民財団へ委託するための費用です。

一部の委員から、千松閣の存続を求める意見がありました。

■虐待防止対策費(28千円)

児童あんしん・DV防止合同部会の令和4年度の委員報酬です。

虐待件数は、全国的にも増加傾向にあり、部会の必要性が増しているため、今後の部会の役割や在り方について検討していくよう求めました。

■児童手当給付費(1,576,055千円)

国の制度として、15歳到達後の最初の3月31日までの児童を養育している保護者に対する手当であり、3歳未満の児童には1万5千円、3歳以上小学校修了前の児童には1万円

(第3子以降1万5千円)、中学生には1万円支給するものです。

一部の委員から、所得に関わらず社会全体で子育てを応援すべきであり、所得により手当を減額する同制度に反対する意見がありました。

■医療的ケア児保育支援費 (3、858千円)

医療的ケア児の保育受け入れに係る費用に補助するものです。昨年度は、私立認定こども園等2か所、2名への支援がありました。

家庭だけで医療的ケア児を保育するのは負担が大きく、本制度を必要な方が利用できるよう受け入れ窓口の拡充を求めました。

■学校給食費(497、525千円)

市内小中学校27校の学校給食調理業務委託費ほか、準要保護児童・生徒に対して給食費を援助する給食扶助費等です。

給食に関する児童及び保護者アンケートにおいても、児童の満足度が高く、保護者からも好評を得ているとのことでありました。

他市の給食事業を展開する会社の営業停止報道を受け、小松市の給食委託の現状についての質問があり、報道の市とは委託形態が異なり、当市の給食委託に同様の影響はないとの説明がありました。

一部の委員から、学校給食調理の民間委託に反対する意見がありました。

■交流推進費 市民交流プラザ管理運営費(14、930千円)

ザ・マッツ市民交流プラザ管理運営に係る経費です。

委託管理している健康交流施設については、小松で一番付加価値が高からうと思われるエリアにあり、その場所でダンスや体操等での少人数の利用しかない状況では、活用方法として本当にふさわしいのか疑問であり、もっと有効活用するべきとの意見がありました。

■820ステーション管理運営費 (2、302千円)

820ステーションの管理を、こまつ賑わいセンターへ委託するための費用です。820ステーションは場所的には良いところなので、今後新幹線が開通した中でも従来のような待合室的な意味合いの利用だけでなく良いのか、少しもつたいないようにも思われる。新幹線開通を機会に新しいニーズ等に対応できるような考え方も必要ではないかとの意見がありました。

議案第66号 令和4年度小松市公営企業会計決算の認定について

■院内保育事業費(12、879千円)

夜間勤務する医療職員の職場環境の改善のため、乳幼児・児童の保育を行う事業費用です。

今後ともより良く活用されていくよう利用者の声を聴きながら実施していきたいとの意見がありました。

総務企画

委員長		副委員長		委員	
片山 瞬次郎	南 陽一	吉 柴 文悟	中 西 肇之	新 田 寛之	高 野 哲郎
川崎 順次	宮西 健吉	高 野 哲郎	新 田 寛之	中 西 肇之	吉 柴 文悟

■報告第14号 地方独立行政法人の業務実績に関する評価結果の報告について

公立小松大学の令和4年度全体評価はA評価と、5段階のうち上から2番目の、順調に進んでいるという評価であったとのこと。

今後、地元企業への就職者が増えることを望む意見や小松市において公立小松大学の学生文化が着実に根付いていくことを期待する意見がありました。また、キャンパスの配置や利用の仕方、学科の新設など、今後の大学のあり方等に関する意見が出され、大学の更なる発展を期待するものです。

■未来型図書館の整備に向けた基本的な考え方について

既存施設の集約・再編等の基本的な考え方としては、既存施設の機能の再編・見直しを図りつつ未来型図書館に集約する、教育研究センターの機能を芦城公園外に移転するとい

う方向性で検討を進めているとのこと。

公会堂については、現在の機能が他施設で対応可能か、他施設で対応できない場合は郊外に新設等する必要性があるのかなど、まず公会堂の機能をどうするかの方性を行政として決めることが一番先ではないかという意見がありました。また、複合型施設であれば広い駐車場が必要となるため、駐車場整備をしっかりと検討するよう求める意見がありました。

さらに、教育研究センターについて、教育相談といった機能面に十分配慮した上で移転先を選定するよう求める意見がありました。

執行部では、年内を目途に、導入機能や具体の立地場所の方性を示す予定とのこと。

■請願第2号 健康保険証廃止の中止等を求める意見書採択の請願について

本請願は、健康保険証の廃止とマイナンバーカードへの一体化について、国に対して中止を含め見直すことを求める意見書の採択を求めるものです。

マイナンバーカードと健康保険証の一体化については、現在も国において慎重に議論されている事項であることから、全会一致をもって、不採択とすべきものと決しました。

福祉文教

委員長	岡山	晃宏
副委員長	斎藤	和美
委員	濱口	淳也
委員	吉村	範明
委員	梅田	利和
委員	橋本	米子
委員	灰田	昌典

■小松市民病院経営強化プラン策定 委員会の開催状況について

「公立病院経営強化プラン」について、専門的立場から審議を行うため、小松市民病院経営強化プラン策定委員会が開催されました。

委員から、医師の確保をはじめとした持続可能な医療環境への取組をプランに盛り込むことを求める意見がありました。

また、病院内における銀行キャッシュコーナーに代わり、院内のコンビニエンスストアのATMが利用できるなどの変更点について、利用者へのより一層の丁寧な説明やアナウンスを求める意見がありました。

■令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

市内の小学校6年生(国語・算数)と中学校3年生(国語・数学・英語)を対象に実施された調査の結果が報告されました。

全体的に基本的事項は理解できて

おり、条件に応じて考えを表現する等活用力を養うことが今後の課題であるとのことでした。今後は、本調査の結果を分析し、各学校で学力向上プランを作成して、改善や対策を実行していくとのことでした。

委員からは、生徒の教育は保護者が学校と一緒に考えていくべき問題で、保護者も学校任せにすることがないよう、学校を支え取り組むことが大切であるとの意見がありました。

さらに、3年間のコロナ禍でマインドが落ちている児童が少なからずいると感じることでした。生徒が自信をもつて挑戦でき、自己肯定感を持てるよう、今後とも取り組んでいくことを求める意見がありました。

■中学生ビブリオバトル石川県大会 及び小学生ビブリオバトルの開催について

ビブリオバトルは、おすすめの本を紹介する書評合戦であり、読書活動を通して、様々な分野への知的好奇心を高め、多様な価値観に触れながら思考力、表現力、聴く力等を身に付ける機会とすることを目的に開催されています。

ビブリオバトルで取り上げられたおすすめの本は、図書館でも展示されるところで、委員からは読書活動を促す興味深い大会であり、実施に期待する意見がありました。

経済建設

委員長	吉本	慎太郎
副委員長	村中	洋
委員	木村	賢治
委員	深田	博智
委員	東	浩一
委員	木下	裕介
委員	表	靖二

■議案第61号 小松市大倉岳高原スポーツ・レクリエーション施設設置条例の一部を改正する条例について

収支の改善、利便性の向上、スキー人口及びスノーボード人口の裾野拡大、通年利用の促進を図ることを目的に、リフト券の種類及び料金の見直しを行うものであります。

シーズン券の購入についても促進することや、シニア層に目を向けた方策を検討すること、また、さまざまなスキー場の利用方法についてもアピールしてはどうかといった意見がありました。

■第47回小松市どんどんまつりについて

第47回目を迎える今年度のどんどんまつりは、小松市民・市内商工業者とともに、「どんどんまつりの復活を契機に小松市民の元気を生み出す」「北陸新幹線小松駅開業間近、新しい

小松に向けて」「小松の今を知り、市民・企業が交流する地域イベントを目指して」の3つのテーマで、こまつ街に賑わいを生み出せる地域イベントを目指して取り組むものであります。

お旅まつりの際に人流データを計測した仕組みを、どんどんまつりでも採用し、今後の集客に向けて活用してほしいといった意見がありました。

■シェアサイクルの寄贈について

小松ライオンズクラブより設立65周年記念として、小松市の文化振興のために200万円相当のご寄附をしていただけることのお申し出があり、協議の結果、加賀立国1200年祭に合わせ、加賀国府ものがたり館をはじめとする小松東部地域の周辺促進のため、シェアサイクル一式が寄贈されることとなったものであります。

シェアサイクル事業の今後の取組として、設置箇所には屋根を設けるなど、自転車雨がざらしにならないよう工夫することや、利用状況により設置場所や管理方法について随時見直しを図ること、また自転車のドレッシングによる広告利用について活用を進めるようにといった意見がありました。

特別委員会 調査報告

小松基地・空港対策特別委員会

委員長	灰田 昌典
副委員長	梅田 利和
委員	濱口 淳也
〃	南藤 陽一
〃	高野 哲郎
〃	片山 瞬次郎
〃	川崎 順次

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点で小松基地における訓練計画はないとのことですが、訓練計画については、速やかに情報提供するよう求めました。

■国の令和6年度概算要求について

住宅防音工事をはじめ、障害防止、騒音防止、道路改修など防衛施設周辺の生活環境などの整備について必要な措置を行う基地周辺対策経費は、令和6年度概算要求額1,406億円で、前年度に対し11・0%の伸びとの報告がありました。

小松基地関連では、F-35Aの取得については、令和7年度に4機、令和8年度に8機、令和9年度に8機配備する予定とのこと。施設整備については、F-35A操縦者訓練施設等の整備に係る費用、F-15受入施設の整備に係る

費用、第6航空団司令部庁舎の建替に関する基本検討に係る費用として、約48億円が計上されているということです。

また、令和6年度の小松基地の定員については、令和7年度からF-35Aを運用するうえで必要な態勢を整備するため、約70名増員となる予定とのこと。

事業所の防音工事についても、特にうるささ指数が85W以上の区域内に所在する事業所について対象となるように、今後とも予算確保の要望に努めていくよう求める意見がありました。

■航空プラザについて

航空プラザの利用状況について、令和5年度8月末の来館者数は昨年度に比べ11・6%増の約9万8千人、夏休み期間中の来館者数は、昨年度に比べ11%増の約3万5千人であり、コロナ前の来館者数に戻りつつあるとのこと。

また、施設改修について、1階大展示場及び小展示場の照明改修工事等を実施予定であり準備を行っているとのこと。

施設の老朽化や今後の来館者の増加などを踏まえ、小松空港及びインター等の周辺アクセス環境と一体的に捉えた整備を県と連携して検討していくよう望む意見がありました。

公共施設マネジメント検討特別委員会

委員長	表 靖二
副委員長	吉柴 文悟
委員	村中 洋
〃	中西 肇
〃	吉村 範明
〃	吉本 慎太郎
〃	橋本 米子

■木場潟スポーツ研修センターの宿泊機能の廃止について

昭和48年建設の木場潟スポーツ研修センター研修棟の現状と課題について説明がありました。築後50年経過しており各種設備に不具合が生じているとのこと。また、宿泊機能についても、太広間で雑魚寝するスタイルで、施設の仕様や機能面で課題のある状態となっているため、今年度いっぱい宿泊機能を廃止する予定ですが、宿泊機能以外についてはこれまで通りとのこと。

■未来型図書館の整備に向けた基本的な考え方について

現在、芦城公園内の公共施設の集約・再編について検討を進めており、その基本的な考え方について説明がありました。図書館、博物館、公会堂の機能の再編・見直しを図りつつ、未来型図書館にその機能を集約する方向で、教育研究センターについては、芦城公園外へ機能移転することとし、ホー

ル機能については都市公園法で設置可能な公園施設となっていないこと。また、市内の既存施設の活用や民間事業者における整備計画があること。将来の人口動向なども踏まえ、非常に重要な課題とらえているとのこと。

教育研究センターは、学校に通いづらい子供たちが相談しやすい立地にあるため、移転先について十分考慮する必要があるとの意見や、ホール機能に関しては、その必要性やあり方について慎重に検討する必要があるとの意見が出されました。

■こまつドームアリーナの活用提案について

アリーナ利活用の優先交渉権者の決定にあたり、公営競技の導入において、「事業の収支計画の実現性」、「地元や市民の理解が得られる事業であるか」、「必要となる国の許認可を得られるのか」の3点について適正かどうかを調査しているとのこと。先行事例の千葉市では、車券販売の売上が伸び悩み、打開策として独自の車券購入サイトを開始していることから、今後の収支動向を注視していくとのこと。当委員会も先日千葉市へ行政視察を行い、収益や施設活用などについて課題があることを認識していることから、慎重な対応が必要との意見がありました。

◆9月定例会の議決結果◆

■全会一致で議決された議案

	議案名	議決結果
予算案 (2件)	第58号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第3号)	可決
	第59号 令和5年度小松市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	//
条例案 (3件)	第60号 小松市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について	//
	第61号 小松市大倉岳高原スポーツ・レクリエーション施設設置条例の一部を改正する条例について	//
	第62号 小松市火災予防条例の一部を改正する条例について	//
その他議案 (4件)	第63号 町の区域の変更及び字の区域の廃止について	//
	第64号 財産の取得について	//
	第66号 令和4年度小松市公営企業会計決算の認定について	認定
	第67号 令和4年度小松市公営企業会計未処分利益剰余金の処分について	可決
市長提出追加 議案 (3件)	第68号 教育委員会委員の任命について	同意
	第69号 監査委員の選任について	同意
	第70号 公平委員会委員の選任について	同意
議員提出議案 (1件)	第4号 市長において専決処分することができる事項の追加指定について	可決
その他案件 (1件)	議員の派遣について(市町村議会議員特別セミナー(参加))	//

■賛否が分かれた議案

○は賛成 ×は反対 退は退席 欠は欠席

	議 案 名	会派自民										小松志士の会				自民党こまつ			無会派				議決結果
		灰田昌典	表靖二	高野哲郎	吉本慎太郎	梅田利和	南藤陽一	岡山晃宏	村中洋	斎藤和美	吉柴文悟	宮西健吉	中西肇	濱口淳也	木村賢治	川崎順次	吉村範明	深田博智	橋本米子	片山瞬次郎	木下裕介	東浩一	
その他議案 (1件)	第65号 令和4年度小松市歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	認定
請願 (1件)	第2号 健康保険証廃止の中止等を求める意見書採択の請願	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	不採択	
議員提出議案 (1件)	第5号 表議員に小松市監査委員並びに小松市議会倫理推進委員長及び公共施設マネジメント検討特別委員長の辞任を求める決議	×	／	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	退	×	○	×	否決	
その他案件 (1件)	議員の派遣について (小松空港国際化推進石川県議会議員連盟 中国・タイ・香港訪問団)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決	

※新田寛之議長、東浩一副議長は小松市議会運営規約第4条に基づき、会派に所属していません。新田寛之議長は採決には加わりません。

予定 12月定例会の日程

※日程は変更になる場合があります。
【問い合わせ】議会事務局 ☎0761-24-8138

日	月	火	水	木	金	土
11/26	11/27 本会議(開会)	11/28	11/29 議会運営委員会	11/30	1	2
3	4	5 代表質問	6 一般質問	7 一般質問	8 常任委員会 (分科会)	9
10	11 常任委員会(分科会) 特別委員会	12	13	14	15 予算決算常任委員会 総括質疑 常任委員会(分科会)	16
17	18	19	20 予算決算 常任委員会	21	22 議会運営委員会 本会議(閉会)	23
24	25	26	27	28	29	30

傍聴可能なもののみ記載

11月27日には
市長による提案説明、
12月5・6・7日には
市政に対する一般質問、
12月15日には
予算案等への質疑、
12月22日には
委員長報告等が
行われます。
小松市政について、
活発な議論が
行われますので
ぜひご覧ください。



小松市
イメージキャラクター
カブッキー

☆議会傍聴 ☆テレビ小松 ☆ホームページ(議会生中継・録画配信)
<https://www.city.komatsu.lg.jp/citycouncil/index.html>

編集後記

議会だより編集委員会

委員長 岡山 晃宏
副委員長 吉柴 文悟
委員 木村 賢治
深田 博智
斎藤 和美
片山瞬次郎



今年の夏は異常な暑さとなり、小松市では観測史上最高となる40度を観測しました。その暑さは9月に入っても続き、秋祭りと共に行われる子ども獅子にも影響が出ているようです。季節の移ろいを感じさせる行事のはずが、熱中症対策が必要な過酷なものに。人手不足による伝統行事の継続が難しくなっている昨今、暑さの問題は今年限りでと願うばかりです。

さて、議会だよりも自分が副委員長として携わってから3号目の発行となりました。編集委員会では読み手の皆さんに議会の内容を見やすくわかりやすく、あらゆる世代に広くお伝えできる広報誌を目指し、時代に沿った手法を取り入れ、変化し続けてまいりますので今後ともご愛読ください。(吉柴 文悟)

働くみなさまを応援します！

〈ろうきん〉は自治体と提携し、
低利な融資をご用意しております！



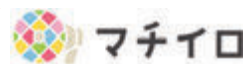
無担保

勤労者小口資金融資制度
勤労者育児・介護休業資金融資制度

詳しくは、北陸ろうきん 小松支店 TEL 0761-22-3342まで

議会だよりがスマホで読める！

「マチイロ」を導入しました！



議会だよりをより多くの皆さんにいち早く提供できるよう、スマートフォン用広報紙配信アプリ「マチイロ」を導入しました。このアプリをダウンロードすると、いつでもどこでも手軽に議会だよりを読むことができます。

「マチイロ」ダウンロードはこちらから▶



サポートネット

日時●11月18日(土)・12月16日(土)・令和6年1月20日(土)
9時～11時30分

専門家による無料相談会

会場●小松商工会議所

問い合わせ先：担当 竹内 TEL 0761-22-9990



不動産鑑定士 弁護士 中小企業診断士 社会保険労務士 司法書士 行政書士 税理士 行政書士 弁護士 土地家屋調査士 行政書士
澤矢 豊伸 TEL0761-21-1122 杉本 昌之 TEL0761-24-3633 竹内 広幸 TEL0761-22-9990 田中 一生 TEL0761-48-7040 谷口 勇一 TEL0761-76-5503 中西 祐一 TEL076-256-5413 山崎 豊 TEL0761-20-3175

- ◆法律
- ◆債権回収
- ◆多重債務
- ◆完済過払
- ◆税金
- ◆登記
- ◆不動産評価
- ◆人事・給与
- ◆会社設立
- ◆相続
- ◆事業承継
- ◆農地転用・開発行為
- ◆事業計画
- ◆公的年金 等の

ご相談をお気軽に【秘密厳守】
私たちが相談に応じます。